

令和3年5月31日

吉永地区3支部説明会（令和3年5月31日）要旨

【凡例】 ○は意見、質問 →は教育委員会の返答

○個人的には反対である。2年後は、あまりにも時期尚早である。小さい学校では、部活が大きな悩みだろう。部活動が続けられるのかどうかも不透明な状況では、不安も大きい。児童生徒数をみると、今後2学級の可能性も十分にある。コロナ禍で学校現場はあたふたしているであろうに、そのうえ編入統合の話を進めるのは、学校にも子どもにも酷ではないか。東中の校舎や施設だけでなく、伝統芸能の神楽を総合学習で学んでいることは、地域の財産である。学校があることで地域が活性化していることは事実であり、なくなれば地域が衰退していくのも事実である。仮に編入統合となった場合でも、給食のこと、校納金のこと、制服のことなどすり合わせが必要なことがたくさんある。だからこそ、時期が早すぎる。ぜひ、アンケートなどで子どもたちの声を聞いてほしい。

→2学級になることもあるが、今後児童生徒数が減っていくことは変わらず、いつかは始めなければならぬ。それが今であると考えた。

○中1にとって、中3になるときに編入することになる。東中に入学するときには、知らされていなかった。吉原三中で卒業するか、東中で卒業するか、選択できるようにしてほしい。子どもたちは子どもたちなりに考えがあるだろうから、ぜひ、子どもたちの意見を聞いてほしい。

→各説明会で「子どもたちの声を聞いてほしい」という声がある。何かしらの方法で、子どもたちの考えを聞いていきたい。

○小学校に通う子どもと話をすると、「友だちと離れるのは嫌だ」という。子どもたちは子どもたちなりに考えがあるだろうから、ぜひ、声を拾ってほしい。

○吉原三中と統合すれば、生徒数が多くなり、同学年とのかかわりが増えたり、部活動も活発になったりするだろう。それでも東中を残したほうがよいと思う。まず一点目は、生徒が少ないほうが、先生方が生徒一人一人の個性を把握でき、優秀な人材の育成につながるのではないかと疑問である。二点目として、通学距離が遠くなり、教育活動に支障がでるのではないかと。最後に、社会性といった人間関係の広がり重視するのであれば、同学年とのかかわりを重視するのではなく、他学年との交流を増やすべきではないかという点である。それらについて、教育委員会としてどのように考えているかを伺いたい。

→一点目の学力についてだが、学力の定義は様々であり、一概に学習面だけにとどまらない。どのような教育が求められ、どのような教育が子どもたちの幸せにつながるのか、このような場で皆さんの教育観をぜひ出し合っていきたい。二点目の通学距離についてだが、学校が近くても、遠くても子どもたちの学びを保障することは、学校の責務である。三点目の交流についてだが、三中では横のつながりに加えて、縦割り活動を代表とする縦のつながりも重視している。どちらが良くてどちらがダメということではない。今よりもっと良くするためにはという視点で考えてほしい。

- 思春期で、心の揺れ動く時期である。子どものサポートを第一にしてほしい。
 - 子どもへの負担をできる限りなくしていきたい。精神面のフォローは最優先事項である。

- 「子どもたちに1年以上前には伝えたい」とあるが、いつ決まるのか。
 - 決定時期を決めて話し合っていない。また、「令和5年4月」は案であるので、変更の可能性がないわけではない。そのため、いつ決定するとは言えないが、決定するにあたっては地域住民がおおむね同意している状況が望ましいと考えている。

- 編入統合の可能性があることが分かっていたのに、なぜ多額の税金を使って体育館を新しく建築したのか。
 - 構造体の腐食が進んでおり、公共建築物として安全性が保障できる状態ではなかった。市内は古い公共建築物が多いのだが、改築や補修工事には多額の費用が掛かるので、工事時期が一時期に重ならないようにしている。東中学校の体育館改修もその一つである。

- 少人数教育にはメリット・デメリットがある。全国では、生徒数が少ないために、複式学級となっている学校があるという。期限をしっかりと決めて進めてもらいたい。

- こうした説明会を吉永の各支部で行っているとのことだが、原田地区も実施するのか。また、原田地区のこの件に関する雰囲気はどうか。
 - 原田地区はここまで細かく意見聴取の場を設けていないが、まちづくり協議会の総会の場で時間をいただき、説明会を行っている旨を説明した。また、吉永第一小ではPTA総会（放送）で話をさせていただいた。また、吉原第三中学校でも、校長先生から編入が検討されている旨を、生徒に向けて話していただいている。

- 原田地区と吉永地区と、温度差があるように思う。ぜひ、東比奈の意見を拾ってほしい。

- 富士川第二小中学校は小中一貫校に向けて開設準備が進んでいると聞く。吉原東中はそのような考えはなかったのか。
 - 小中一貫教育は富士市内の全ての中学校区で進められている。富士川第二小・中学校は、ちょうど校舎の建替時期が重なったうえに、一小一中の校区であったなど条件が重なった。吉原東中と吉永一小の小中一貫教育も実施されているが、施設一体型小中一貫となると、校舎や設備といった施設面や学区の変更といった行政面の課題が多い。